

授業科目 解剖生理学 I

【担当教員名】	対象学年	1	対象学科	栄養
川中 健太郎	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要】

これからの栄養士は、摂取した食物がどのように体内で代謝されて利用されるかについてよく理解し、その知見を栄養指導等に生かしていく能力が必要とされる。解剖生理学 I および II ではこれらの能力の土台となる” 身体の構造と機能についての基本的な知識” を学習する。解剖生理学 I では、特に、栄養生理的な面を強調して、身体の構造と働きについて学習する。

【学習目標】

- 1) ”細胞” とその集合体である”組織” について理解する。栄養素が消化・吸収されてエネルギー源として利用されるしくみを理解して説明できるようになる。
- 2) 栄養素が消化・吸収されてエネルギー源として利用されるしくみを理解して説明できるようになる。
- 3) 代謝された栄養素の排泄の仕組みを理解して説明できるようになる
- 4) 生活習慣病の成り立ちを生理学的に説明できるようになる。
- 5) 身体が恒常性を保つ仕組みを理解して説明できるようになる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ガイダンス		講義 一部、ビデオを活用
2	人体の構造		
3	細胞と組織	人体は何からできているか 細胞の種類と基本構造。人体の各組織はどのような細胞から成り立っているか	
4		細胞における遺伝子発現とたんぱく合成のしくみ	
5	消化と吸収	口腔内および胃における栄養素の消化	
6		小腸における栄養素の消化	
7		小腸における栄養素の吸収	
8		肝臓における栄養素の貯蔵	
9			
10	循環系	心臓の構造	
11		心拍動のしくみ、心拍数の調節	
12		血管の構造と働き	
13		血圧調節	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	人体の構造と機能 解剖生理学		メディカ出版	2004年 4800円
参考書				
その他の資料				
【評価方法】	【履修上の留意点】			
期末試験と出席状況	高校時代に”化学” ”生物” を履修していない学生、または、理解が不十分な学生は補習教育の”化学” や”生物” を受講して学力を補強しながら授業に臨むこと。			

健康栄養学科
専門